



名古屋空港開港 80 周年記念パネル展

～名古屋空港の歴史を振り返る～



2025
2/8(土) → 3/16(日)

場所：あいち航空ミュージアム 1階実機展示エリア
内容：パネルと関係資料で名古屋空港の80年の歴史を紹介。
1971年の国際航空宇宙ショーの超レア映像も公開！

背景写真：『ありがとう名古屋空港』記念切手 2005年(個人蔵)より

県営名古屋空港開港 20 周年記念事業 イベント 2025年2月15日(土)開催



1 「KC-767」の実機展示

- ・航空自衛隊の空中給油機・輸送機を特別公開

時間 11:00～13:00
場所 あいち航空ミュージアム東側駐機場



2 ステージイベント

- ・豊山ウインドオーケストラによる演奏
- ・クイズ大会およびトークショー

時間 14:00～15:30
場所 あいち航空ミュージアム 1階
フライングボックス前

注意事項

- ・①②ともに事前の参加申し込みは不要です。ただし、参加費は無料ですが、あいち航空ミュージアムの入館料が別途必要です。
- ・①の参加者には、当日、空港保安上の観点から、金属探知機による保安検査等を受けていただきますのでご了承ください。
- ・天候や航空機の運航状況により、イベントの中止・変更又は実施時間の変更をすることがあります。
- ・詳細は県営名古屋空港開港 20 周年記念事業 特設 Web サイトをご覧ください。

QRコード

詳細は県営名古屋空港開港 20 周年記念事業 特設 Web サイトをご覧ください。
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kouku/nagoyaap20th.html>

主催 県営名古屋空港協議会

〒480-0202 愛知県西春日井郡豊山町大字豊場(県営名古屋空港内)

お問合せ TEL:0568-39-0283 FAX:0568-29-0322
開館時間 10:00～17:00(最終入館は閉館の30分前)
休館日 火曜日・水曜日(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)
臨時休館(2月14日・17日)
入館料 一般:1,000円 大学・高校生:800円 中・小学生:500円
未就学児は無料 障がい者の方は無料(窓口にて手帳提示)
※セット券や年間パスポートも販売中。詳しくはWEBサイトをご覧ください
<https://aichi-mof.com/>



主催：あいち航空ミュージアム 後援：愛知県教育委員会 協力：一般財団法人日本航空協会 / 航空ジャーナリスト協会

名古屋空港開港 80周年 記念パネル展

～名古屋空港の歴史を振り返る～

県営名古屋空港は、2025年(令和7)2月17日で開港20周年を迎えます。

また、前身である小牧飛行場も2024年(令和6)2月に設置80周年を迎えました。

この節目の年に、1934年(昭和9)に名古屋港に開港した名古屋飛行場を含めて名古屋空港の歴史を年表パネルと5つのテーマパネルで紹介します。

➤ 年表パネル ➤ 名古屋空港 80年のあゆみ

1944年(昭和19)の小牧飛行場設置から今日までの主要な事項を写真を交えて年表で紹介します。



➤ テーマパネル ➤ 名古屋空港の主な出来事

1934年(昭和9) ▶ 1945年(昭和20)

HISTORY 1 名古屋港に飛行場建設(名古屋飛行場)

1934年に名古屋港に念願の民間飛行場(名古屋飛行場)が建設されました。この時期は航空技術の発展とともに、飛行場の重要性が増しました。



名古屋飛行場絵葉書(個人蔵)1934年頃



1952年(昭和27)マーチン202

『飛翔 写真でみる名古屋空港のあゆみ』1988年より

1944年(昭和19) ▶ 1958年(昭和33)

HISTORY 2 戦争とその後の占領期を経て

名古屋空港の前身となる小牧飛行場は、第二次世界大戦中に陸軍航空基地として重要な役割を果たし多くの軍用機が配備されました。終戦後、アメリカ軍に接收され、インフラ整備が行われた後、1958年に日本に返還され、地域の復興と発展に寄与しました。



1966年(昭和41)コンペア880

『飛翔 写真でみる名古屋空港のあゆみ』1988年より

1959年(昭和34) ▶ 1984年(昭和59)

HISTORY 3 地域の航空交通の発展に大きく貢献

小牧飛行場は、1960年(昭和35)4月に名古屋空港と改められ、国内線の航空路線が増加し、ビジネスや観光需要が高まりました。施設の整備・拡張により発着可能な航空機が増え地域の経済発展に寄与し、航空交通の要としての地位を確立しました。



各種テレホンカード(個人蔵)

1985年(昭和60) ▶ 2005年(平成17)

HISTORY 4 国内外の航空交通の重要な拠点としての地位を確立

国内線・国際線の拡充で利用者数が増加し、施設の整備拡張で多くの航空機が発着可能になりました。アジアや北米、ヨーロッパへの直行便が増え、国際的なハブ空港としての役割を強化しました。

2005年の中部国際空港(セントレア)開港まで、名古屋空港は主要な国際空港として機能しました。



『ありがとう名古屋空港』記念切手 2005年(個人蔵)

2005年(平成17) ▶ 2025年(令和7)

HISTORY 5 国際空港から地方空港へ

2005年2月17日の中部国際空港(セントレア)開港により、名古屋空港は県営名古屋空港として再出発しました。それ以来、主に国内線やビジネスジェットの発着に利用され、2025年2月17日で開港20周年を迎えます。